

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 岡崎市立南中学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒444-0840
岡崎市戸崎町字野畔8番地1

E-mail minami@st.oklab.ed.jp

Website _____

児童生徒数 男子 210 名 女子 190 名 合計 400 名
 児童・生徒の年齢 13 歳～ 15 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解……「スウェーデン ウッデバラ市交換留学生（1週間）」
「ドイツからの留学生（半年）」
- 世界遺産
- 平和・人権…「全校 いじめ撲滅集会」
- 環境……「岡崎市環境プログラム」「学区大清掃」「SEP活動」
- 気候変動
- 生物多様性…「岡崎市環境プログラム」
- エネルギー
- 防災……「3年 防災学習」
- 食育
- 伝統文化……「1年 地域講師の会」
- その他……「全校 トップランナーに学ぶ会」

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について

A トップランナーに学ぶ会

(地域の活躍、伝統文化、視野を広げる活動)

6月3日(金)と11月30日(水)に、「トップランナーから学ぶ会」を行った。これは、主に岡崎在住で各方面における先進的な取り組みをしている方を講師として招き、講演をいただいたり、演奏・実演をしていただいたりする会である。第一回は岡崎市長、その後、戦場カメラマン、タップダンサー、農場経営者、看護学校教授、洋菓子職人等を講師に招いた。今年度は、本校伝統の「南中深刺太鼓」を応援していただいている和太鼓演奏者とテレビ番組で「匠」として活躍した建築家に講演していただいた。会の後、生徒は感謝の手紙を書いている。



和太鼓演奏者を招いて(演奏・写真右上)
有名建築家を招いて(講演・写真右下)

B 1年環境学習(岡崎市環境プログラムによる)

6月16日(木)に、豊橋総合動植物公園「のんほいパーク」で校外学習を行った。アムールトラが絶滅危惧種に指定されていることを学んだり、また国の天然記念物であるタンチョウを見たりした。シダ植物や食虫植物、熱帯性の植物など、普段あまり見ることのできない植物を観察した。校外学習後には、観察した植物について調べ学習をし、植物紹介カードを作成した。それを基に、植物の分類を考察する活動を通して、植物の多様性を感得できた。



6月23日(木)に、岡崎市環境部環境保全課の方に「STOP! 移入種~守ろう! 岡崎市の生物多様性~」と題した出前授業をしていただいた。アライグマやセイヨウタンポポの話から、特定外来生物について理解を深めた。



「のんほいパーク」でシダ植物を観察する生徒(写真右上)
市の環境保全課の方を招いた出前授業(写真右下)

C 学区大清掃と資源回収(SEP活動)

毎年、8月第3週土曜日に学区大清掃を行っている。各町に分かれ、地区総代の方と連絡を取り、地域の方と協力をしてごみ拾いなどの活動を行っている。各地区の方々と協力することで、郷土愛を深める活動でもある。

資源回収は、SEP(Save the Earth and People)委員会を中心となり、日常の活動

として行っている。ペットボトルキャップ、アルミ缶、牛乳パックを集め、各学級のSEP委員が集計を行っている。毎月の委員会で個数報告を行い、回収率を上げるための工夫などを話し合っている。

回収された資源は、学期末に業者に引き取ってもらい、そこで得た収益は生徒会費として各生徒会活動に生かしている。回収量は年々増加しており、現在は全員参加を目標に呼びかけている。

資源回収を通して、環境保全への意識を高め、学校生活の充実に努めている。

各学級で集められた資源を業者に引き渡す生徒たち



D 3年「防災学習」

災害時、避難生活を余儀なくされる中で、中学生の力は非常に大きいと言われている。南海トラフ地震や水害から自分の命や家族の命を守り、さらに地域のために何ができるかをテーマに防災学習を行った。

煙道体験をとおして生徒たちは、火災時にどのような状況に置かれるかを体験した。十分な視界がなくなり、息苦しくなる状況に驚いていた。また、消防士の方から処置の方法を教わった。布があれば応急処置できることを知り、自分たちでもできることがあることを知った。

岡崎市の防災ガイドブックをもとに、地震が起きたり、水害が起きたりしたときの自宅の被害状況を予測した。また、自分の家の防災状況を確認し、不足しているものや避難場所への経路を調べた。それらをもとに、それぞれの家の状況に対応した防災ガイドブックを作成した。

家族と防災状況を話し合う状況を作り、家族全体の防災意識を高めることができた。



煙道体験をする生徒たち（写真右上）
応急処置を教わる生徒たち（写真右下）

E 交換留学生とのかかわり（国際的視野を広げる活動）

9月、本校生徒会長がスウェーデンのウッデバラ市との交換留学を行った。留学後は、体験報告会を開き、スウェーデンの文化を伝えた。また、ウッデバラ市からは、約1週間、中学校3年生の交換留学生が来日した。本校生徒は、留学生と共に英語の授業や書写の授業、部活動などを行った。スウェーデンの文化について学ぶだけでなく、日本の文化を伝える側として、「毛筆」を教えた。「知りたい」「学びたい」という意識が強かった国際交流に、「伝えたい」という意識が芽生える活動となった。

また、別に4月から11月の文化祭まで、ドイツから留学生を迎え入れた。母親が本校卒業生であったため、要請により半年間、机を並べて学習した。文化祭においてスピーチを行い、ドイツとの教育観の違い、日本文化の「協調性」に対する素晴らしい発表を聞き、日本文化の素晴らしさを再認識することができた。



スウェーデンからの交換留学生（写真右上の右）
ドイツからの留学生（写真右下）

F いじめ撲滅集会（人権を守る活動）

いじめ撲滅集会では、今年度はテーマを「人とのつながり」とした。人と人との関わりの中で、自分には見えない相手の気持ちに気づき、より良い関係を形成できるような言葉がけや行動について考えるきっかけとなる集会を企画した。

当日は、生徒会役員作成の「事前アンケートの集計結果の報告」と、いじめに関して加害者傾向にあるか、被害者傾向にあるかを診断する「いじめに関わる診断テスト」と診断テストの結果を発表する「生徒会自作ビデオの視聴」、次に、全校生徒の心に訴えかけるための絵本「みずいろのマフラーの朗読」、そして、PTAの方々による「保護者からの愛のメッセージの朗読」、最後に、生徒会役員による「いじめ撲滅のための提言」を行った。

「普段あなたは、周りの人にどんな言葉をかけていますか。言葉は人の心を温かくするために使いましょう。」と全校生徒に訴えかける生徒会役員。この集会を通して「いじめをしない」ではなく、「相手の心を温かくしたい」と考えられる南中生になってほしいという生徒会役員の強い思いを全校が共有できた。周りの人を大切にしたいという思いが、より強まり、学校全体、そして社会へと広がっていくような継続的な実践となるように、こうした取り組みを積み重ねて、さまざまな活動や日常生活につなげていきたい。

＜加害者傾向＞	
0～2：Aタイプ	相手のことを考えている
3～6：Bタイプ	気付かない間に気付いている
7～9：Cタイプ	言動がきつくなっているかも
＜被害者傾向＞	
0～2：Dタイプ	自分の意志をもっている
3～6：Eタイプ	相手に流されやすい
7～9：Fタイプ	自分の意志を伝えることが苦手



診断結果のタイプ（上表）
提言する生徒会役員（下写真）

G 地域講師の会（伝統文化を体験し、地域の伝統に目を向ける活動）

1年生の総合的な学習の時間には、「地域講師の会」を行った。生徒には、事前に希望調査を行い、11の講座に分かれての実施となった。地域の方々を講師として招き、伝統文化等を体験するこの会では、伝統文化を学ぶだけでなく、地域の方々との交流を通して、「伝統を後世に伝えていこうとする姿勢」も学ぶことができた。



No.	講座
1	日本の着物体験
2	箏で合奏を楽しみましょう
3	腕時計のしくみと組立
4	自分で考える折り紙（折り紙Ⅰ）
5	折り紙を楽しもう（折り紙Ⅱ）
6	鑄造キーホルダー
7	三河仏壇の木彫をしよう
8	消しゴムはんこ作りとハンコの話
9	はり絵
10	ちいさなしかけ絵本を作ろう
11	レッツダンス

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）